自閉スペクトラム症のある児童生徒に対するライフキャリア教育の検討

―支援要点の確認と授業への活用に視点をあてて―

A Study of Life Career Education for School Children with Autism Spectrum Disorders :

Focusing on identifying key points of support and their use in the classroom

大　谷　博　俊

OTANI Hirotoshi

鳴門教育大学学校教育研究紀要

第 37 号

Bulletin of Center for Collaboration in Community

Naruto University of Education

No.37, Feb, 2023

研究報告

鳴門教育大学学校教育研究紀要　37，1 － 5

自閉スペクトラム症のある児童生徒に対するライフキャリア教育の検討
―支援要点の確認と授業への活用に視点をあてて―

A Study of Life Career Education for School Children with Autism Spectrum Disorders : Focusing on identifying key points of support and their use in the classroom

大谷　博俊

〒772-8502　鳴門市鳴門町高島字中島 748 番地　鳴門教育大学大学院学校教育研究科（特別支援教育）
OTANI Hirotoshi
Department of Special Needs Education, Graduate School of Education, Naruto University of Education
748 Nakajima，Takashima，Naruto-cho，Naruto-shi，772-8502，Japan

抄録：研究では，先行研究（大谷ら，2020）以降に公表された研究論文を対象とし，文献レビューを行った。具体的には，選定した発達障害児に対するライフキャリア教育に関する研究論文を，設定した観点で整理し，次に教育実践における必要性，有用性に着目し，7 つの要点を抽出した。要点とは「キャリアに関する実態」，「キャリア実態に即した学習目標」，「自己」，「明確な学習テーマ」，「職業的な体験を通した学び」，「児童生徒同士，児童生徒と支援者との関係」，「人的な支援環境」である。そして，これらの要点を自閉スペクトラム症児のライフキャリア発達支援における要点であると結論づけた。また，教育実践に活用するために，要点を授業の“組み立て”に沿って再構成し，授業の要件として示した。

キーワード：自閉スペクトラム症，児童生徒，ライフキャリア教育，支援の要点，授業づくり

Abstract：In this study, we reviewed research articles published after our previous study (Otani et al., 2020). Specifically, the selected research articles on life career education for children with developmental disabilities were organized from a set perspective, and then seven main points were extracted, focusing on their necessity and usefulness in educational practice. The seven key points are：“actual conditions related to careers”, “learning goals in line with actual career conditions”, “self”, “clear learning themes”, “learning through vocational experiences”, “relationships among school children and between school children and supporters” and “personal support environment”. We concluded that these are the key points in supporting the life career development of children with autism spectrum disorder. In order to apply them to educational practice, the key points were reorganized according to the “structure” of a class and presented as the requirements for a class.

Keywords：autistic spectrum disorder, school children, life career education, key points of support, lesson planning

Ⅰ．問題の所在

キャリア発達における“キャリア”概念は，“ライフキャリア”であるという主張（川﨑，2007）に加えて，学習指導要領に小学校段階からキャリア教育に取り組むことが示されたことから（文部科学省，2017），我が国のキャリア教育における同概念の位置づけは，改めて明確になったといえる。

一方，特別支援教育におけるキャリア教育は，特別支援学校高等部の職業教育・進路指導を基盤としていたため，知的障害者を対象とし，彼らの就労に関する教育的支援に焦点化される傾向があるという特徴を見ることができた（例えば，国立特別支援教育総合研究所，2008）。

しかし，障害特性を考慮することは，他の特別支援教育実践と同様であり，その意味で，発達障害者，特に就労に困難を示すことが多い自閉スペクトラム症については（例えば，川端，2015，2019），児童生徒に対するキャリア教育において，その発達支援を問うことは適当であると思われる。

Ⅱ．目　的

前述の問題意識に基づき，特別支援教育における自閉スペクトラム症のある児童生徒（以下，自閉スペクトラ

ム症児とする）に対するライフキャリア発達支援の要点を確認したい。

Ⅲ．方　法

キャリア教育，特にライフキャリア教育実践については，平成23年のキャリア教育に関する答申（文部科学省，2011）の影響は大きく，答申以降2019年までの障害者に対する支援実践において，キャリアアダプタビリティやライフキャリアレジリエンスといった概念の重要性が言及されている（大谷・尾関・井上・佐藤・高原・伊藤，2020）。ここでは，CiNii Articlesを用いて分析資料が抽出されているが，初等中等教育段階における教育実践は，初等教育実践1件であり，発達障害者を対象とした教育実践はみあたらない。

そこで，本研究では，改めて特別支援教育におけるライフキャリア教育実践を分析するために，先行研究（大谷ら，2020）以降2022年の期間に公表された研究資料を検索・検討することとした。検索にはCiNii Researchを用い，「発達障害（キャリアORライフキャリアORキャリア教育）」を検索ワードとして設定し，研究資料を選定した。

次に，該当する研究資料を研究対象者の主な教育段階，校種，障害名，および研究要旨の点から整理した。その上で，教育実践における必要性，有用性に着目し，要点を抽出した。最後に，自閉スペクトラム症児のライフキャリアを育む教育プログラムの論点事項（大谷，2022）と照合し，検討した。

Ⅳ．結　果

初等中等教育段階の発達障害のある児童生徒を対象とした研究資料は7件であった（表1，2）。

尚，本研究目的を考慮し，保護者のみを対象とした研究や高等教育機関に在籍する発達障害のある学生を対象とした研究などは，教育・指導といった実践的な研究資料であっても対象外とした。

図1に研究資料から導出したライフキャリア教育実践の要点を示した。

表1　分析対象研究資料（2019～2021）の対象者の主な教育段階，主な校種，主な障害名，研究要旨

著者（発表年）・対象者の主な教育段階［校種］・障害名	研究要旨
滝口・榎本・宮本・安井（2019） 初等教育［小学校］ 自閉スペクトラム症，注意欠如多動症	発達障害のある児童のキャリア教育における自己や他者への関心，仕事に対する関心，自己イメージ，目標に向かって努力する態度などを形成するために，月に1回程度，2時間30分から6時間で，計9回，体験的に「並木際」[1]でカフェを運営することを中核に，事前・事後学習を組み入れた活動で構成された学習プログラムを実施した。
西澤・深山・西川（2019） 初等教育［小学校］ 自閉スペクトラム症	自閉症のある児童のキャリア意識を育むために，9単位授業時間の総合的な学習の時間における「学び合い」による授業[2]を行い，児童同士の相互行為を保証した学習環境での相互的会話が，職業的観点からキャリアについての考えを育むために有効であることを示した。
矢野・下條・權（2019） 後期中等教育 自閉スペクトラム症	自閉スペクトラム症のある生徒が自身の特性からくる強みを生かしながら，社会的職業的に自立するための能力を伸ばすためには，パーソナリティ（例えば，こだわり）とキャリア（例えば，コミュニケーションスキルやソーシャルスキル）の実態をScale for Coordinate Contiguous Careerといった評価尺度などで把握し，生徒・教員が共にそれらを理解しつつ，キャリアを育むことの必要性を指摘した。
宮野・徳永（2021） 中等学校［中学校］ 後期中等教育［特別支援学校・高等学校］ 自閉スペクトラム症，知的障害	文献レビューを通して，発達障害，知的障害のある生徒を対象とした職業教育やキャリア教育実践の目標設定においては，適切なアセスメントを用いて，主観性を弱めた実態把握によって，信頼性と妥当性が改善できる可能性を指摘した。また，目標設定においては，授業者の意思決定を否定するのではなく，主観性を弱めるための第3者（例えば，生徒）の視点導入の必要性を指摘した。

表2　分析対象研究資料（2021～2022）の対象者の主な教育段階，主な校種，主な障害名，研究要旨

著者（発表年）・対象者の主な教育段階［校種］・障害名	研究要旨
鈴木・高橋（2021） 後期中等教育［特別支援学校］ 発達障害，ミソフォニア症	発達障害のある生徒にキャリア発達を促しながら，聴覚の過敏さ（ミソフォニア症）への自己支援と教員・保護者など関係者による人的な支援を含めた包括的な支援体制を進め，生徒が情動の調整や自己の理解ができるための取り組みを行い，支援の有効性を示した。
武澤・榎本・新堀（2021） 後期中等教育［特別支援学校］ 自閉スペクトラム症	発達障害のある生徒のキャリア教育のために，月に1回程度，3年間にわたり，50分から90分間で，就労に関する知識を学ぶ座学やメモの作成といった職場で必要となるスキルの練習をはじめとして，就職面接の疑似体験，職業適性検査の受検や企業見学などで構成された学習プログラムを実施した。プログラムの成果は，就労意欲，就労準備行動，知識・技能，自己理解，障害理解・受容，仕事理解の観点から評価した。
原（2022） 中等教育［中学校］ 後期中等教育［高等学校］ 発達障害	発達障害のある中学生・高校生らを対象として行った思春期キャリア支援プログラムについて，論文レビューによって導き出したキャリア支援実践に求められる構成要素が含まれているかを検討し，さらに“キャリアデザインワーク”と呼称する実践を取り上げ，それ以外の構成要素が含まれていないか検討した。構成要素には，「自分づくり支援（自己形成）」，「社会的自己の気づき（自己形成）」，「狭間問題への対応（社会制度）[3]」，「地域協働の構築（地域社会）」，「保護者のエンパワー（地域社会）」，「同世代の若者の関与（自己形成）」，「思春期からの参加（自己形成）」があり，キャリア援助実践において重要であると指摘した。

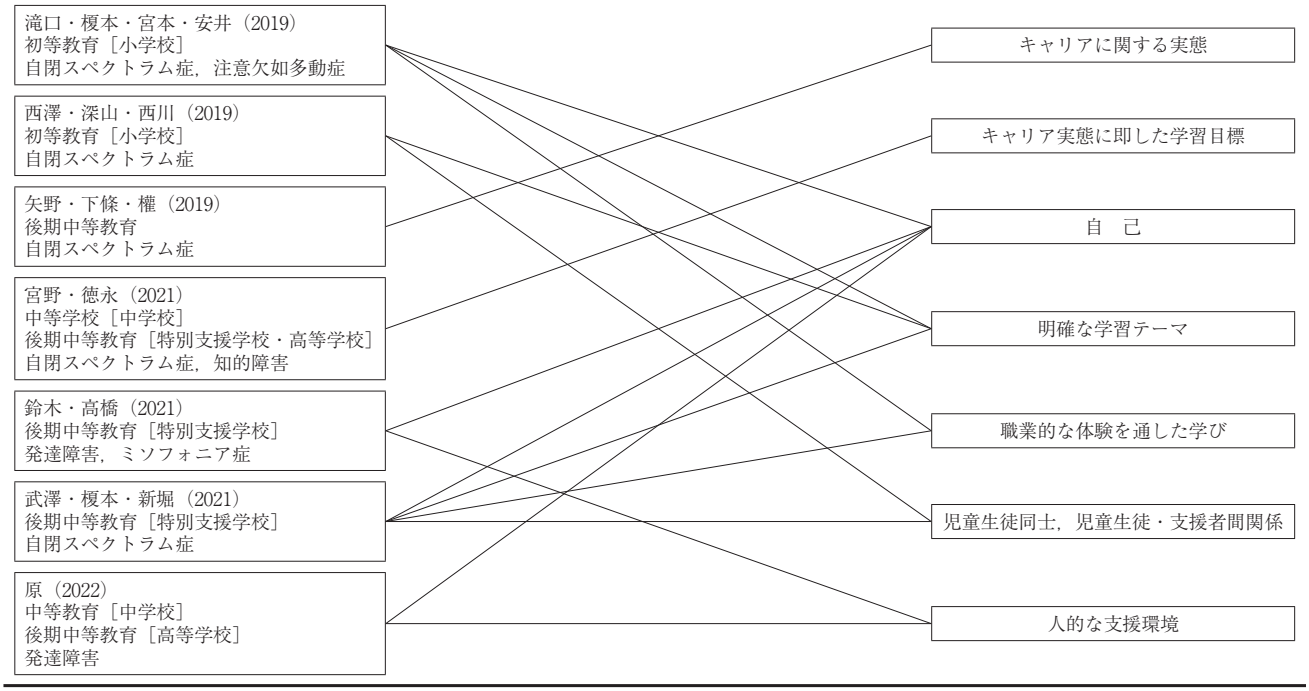

図１　研究資料から導出したライフキャリア教育実践の要点

Ⅴ．考　察

分析対象とした資料から，ライフキャリア教育実践においては，「キャリアに関する実態（矢野・下條・權，2019）」をとらえ，その「キャリア実態に即した学習目標（宮野・徳永，2021）」の設定が必要であり，特に自己のイメージや自己への関心といった「自己（例えば，原，2022）」についての扱いは重要であるといえる。

そして，「明確な学習テーマ（例えば，武澤・榎本・新堀，2021）」に基づいた，「職業的な体験を通した学び（例えば，滝口・榎本・宮本・安井 2019）」は，初等教育段階の児童においても有用であると考えられる。

また，このようなライフキャリアの発達は，「児童生徒同士，児童生徒と支援者との関係（例えば，西澤・深山・西川，2019）」を通して成立するものであり，共に学ぶ仲間，教員や保護者といった「人的な支援環境（例えば，鈴木・高橋，2021）」に支えられていると考えられる。

ところで，上述したライフキャリア教育実践における種々の要点は，どのように自閉スペクトラム症児のライフキャリア発達支援の論点事項（大谷，2022）と対応しているのだろうか。

例えば，“将来の可能性を行動レベルでとらえる”という論点事項（大谷，2022）は，能力を育成するという教員の姿勢と行動を詳細に吟味することに言及している。ライフキャリア発達支援のためには，児童生徒の深い理解が大切であり，自閉スペクトラム症児の社会的・職業的自立に要する能力・態度の萌芽（例えば，「挨拶」につながる，呼びかけに応える，視線を合わせるなどの原初的な反応，技能など）を見逃さず，関連する行動を詳細にとらえることだといえる。これらは換言すれば，「キャリアに関する実態」の把握に他ならない。

同様に，「自己」は“他者と関わる過程で判定される自己”や“自己認識を把握する”，そして「明確な学習テーマ」や「職業的な体験を通した学び」は，“現在と将来をつなぐ教育”，さらに「児童生徒同士，児童生徒と支援者との関係」は“他者と関わる過程で判定される自己”，「人的な支援環境」は“環境的に補うという発想”というように，各対応していると考えられる。

一方，「キャリア実態に即した学習目標」については論点事項（大谷，2022）で言及されていないものの，宮野・徳永（2021）の主張は，自閉スペクトラム症のある生徒を想定したものである。

これらのことから，前述の種々の全要点は，自閉スペクトラム症児のライフキャリア発達支援においても要点だと考えられる。

Ⅵ．結　語

本研究では，文献レビューから，「キャリアに関する実態」，「キャリア実態に即した学習目標」，「自己」，「明確な学習テーマ」，「職業的な体験を通した学び」，「児童生徒同士，児童生徒と支援者との関係」，「人的な支援環境」というライフキャリア教育実践の要点を導出し，これらは自閉スペクトラム症児のライフキャリア発達支援における要点であると結論づけた。最後に，教育実践に

表３　ライフキャリア発達支援のための授業における要件

児童生徒理解（実態の把握）
・キャリア（かかわる力，みつめる力，すすむ力，えがく力）[4] が把握できている
・キャリアの能力・態度を行動レベルで把握できている
・特性（例えば，細部への集中，作業手順の遵守などのこだわり）が把握できている
・特性（児童生徒の“強み”）の生かし方が分かる
・児童生徒の理解においては，「夢やあこがれが，即，個人の能力と一致しているかどうか，将来実現する可能性があるかどうかを客観的に判断したり，また適性とか個人の興味や関心を実現できるか適職の探索に直ちに結びつけたりしない（渡辺，2010）」姿勢を持っている

学習目標
・把握したキャリアの能力・態度に基づいた学習目標が設定できている
・把握した特性に基づいた学習目標が設定できている

学習内容の選定・組織化
・イメージしやすい（イメージしやすいように工夫した）テーマを取り上げている
・職業的な体験や活動を取り上げている
・座学だけでなく体験的な学習が組み込まれている

教材・教具
・具体物，視聴覚教材など“見て分かる”，“操作して分かる”教材・教具を使用する

学習計画
・１単位時間や１つの単元だけで完結せず，他の教科学習や行事との関連性を考慮している

授業展開
・「私は～したい」「私は～だと考える」といった児童生徒の意見，意思，判断などが繰り返し表現できる機会がある
・児童生徒の意見，意思，判断などに肯定的な反応を返す
・児童生徒の意見，意思，判断の背景を予測（しようと）する
・児童生徒同士が十分に関わる機会がある
・児童生徒が自身の活動（言動）や仲間の活動（言動）を振り返る（振り返りを積み重ねるなどの）機会がある

指導体制
・指導者間で上記内容を共有している
・保護者（関係者）と上記内容を共有している

評価
・把握したキャリアの能力・態度に基づいた学習目標が評価できている
・把握した特性に基づいた学習目標が評価できている

おけるこれらの活用について述べ，本研究のまとめとしたい。

教員にとって最も身近で，重要な教育実践である“授業”を例に取れば，特別支援教育においては，実態把握に始まり，学習目標を設定し，学習内容を選定・組織化しつつ教材・教具の研究を行い，学習計画を立て，授業展開，指導体制を検討し，評価を行うというサイクルを繰り返す。表３は，このような授業の“組み立て”に，論点事項（大谷，2022）を加味した要点を再構成し，授業の要件として配置したものである。

授業を組み立てるにあたって，教員が要件を点検することで，自閉スペクトラム症児のライフキャリア発達支援のための適切な授業準備ができるのではないだろうか。

注　記

1）国立障害者リハビリテーションセンター研究所の催し物

2）西澤ら（2019）は，「『学び合い』授業は，「子どもは有能である」という子ども観に立ち，教師は「目標の設定」「評価」「環境の設定」を行い，それ以外の学習活動は子どもに任せるスタイルである」と述べている

3）「社会参加に躓く若者の要因には健常と障害の問題がある」と「発達障害等の狭間の問題への支援方策は不十分である」といったキー概念を含む構成要素

4）「徳島県キャリア教育推進指針」（徳島県教育委員会学校政策課，2014）に示されているキャリア教育で主に身に付けたい能力・態度

引用文献

原　まゆみ（2022）発達障害等のある若者の学校から社会への移行期支援に求められるもの―思春期キャリア支援プログラムの実践検証をとおして―．都留文科大学研究紀要，95，75 － 91.

川端奈津子（2015）発達障害者が働き続けるために必要な支援の検討―高機能自閉症スペクトラムを中心に―．群馬医療福祉大学紀要，第４号，79 － 86.

川端奈津子（2019）就職した自閉スペクトラム症者が困難に対処しながら働き続ける過程．自閉症スペクトラム研究，17(1)，43 － 51.

川﨑友嗣（2007）キャリアとは何か―キャリア概念の今日的な意味を考える―．発達障害研究，29(5)，302 － 309.

国立特別支援教育総合研究所（2008）知的障害者の確かな就労を実現するための指導内容･方法に関する研究.

宮野雄太・德永亜希雄（2021）我が国の知的障害・発達障害のある人に対する職業教育・キャリア教育の目標設定に関する予備的考察～「特殊教育学研究」に掲載された論文に焦点を当てて～．横浜国立大学教育学部紀要．Ⅰ，教育科学，４，161 － 175.

文部科学省（2011）今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について（答申）.

文部科学省(2017)小学校学習指導要領(平成 29 年告示).

西澤尚輝・深山智美・西川　純（2019）『学び合い』キャリア教育授業における特別な支援を要する児童の変容に関する事例的研究．上越教育大学研究紀要，39(1)，54 － 62.
大谷博俊・尾関美和・井上とも子・佐藤長武・高原光恵・伊藤弘道（2020）特別支援教育におけるライフキャリアの支援．鳴門教育大学研究紀要，35，93 － 108.
大谷博俊（2022）ライフキャリアを育む教育プログラムのための論点整理―自閉スペクトラム症のある児童生徒に視点をあてて―. 鳴門教育大学学校教育研究紀要，36，123 － 128.
鈴木雅義・髙橋美佐紀（2021）ミソフォニア症状を有する特別支援学校高等部生徒のキャリア発達を促す包括的支援方法の開発：自己肯定感を高め，社会参加できる支援を目指して．静岡大学教育実践総合センター紀要，31，420 － 427.
武澤友広・榎本容子・新堀和子（2021）発達障害生徒とその親に対するキャリア教育プログラムの効果的援助要素．日本評価研究，21(1)，141 － 154.
滝口圭子･榎本（寺田）容子･宮本昌子･安井　宏（2019）発達障害のある小学生を対象とするキャリア教育プログラムの開発．臨床発達心理実践研究，14，73 － 83.
徳島県教育委員会学校政策課（2014）徳島県キャリア教育推進指針.
渡辺三枝子（2010）第 3 章キャリア教育実践上の鍵．渡辺三枝子・鹿嶋研之助・若松養亮著，学校教育とキャリア教育の創造，学文社，78 － 100.
矢野夏樹・下條満代・權　偕珍（2019）キャリア教育の観点に基づく発達障害者教育―自閉スペクトラム症者のキャリア教育を中心に―．Journal of Inclusive Education，6，86 － 92.

本研究は JSPS 科研費　JP19K14286 の助成を受けた。